



日本女医学会誌

復刊第 205 号
2011 年 1 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

「やるしかない」、その先に道が開く

会長 津田喬子

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年とはさまざまな行事や、さらに各地区の活動への積極的なご参加とご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

第 55 回定時総会において選任されました新役員一同も、新型インフルエンザをものともせず、一致協力してさまざまな活動をすすめることができました。これらの活動を通して日本女医学会の存在をさらに高めることができたと思います。

昨年、テレビで浅川智恵子氏の活躍ぶりが紹介されました。浅川氏は全盲ですが、2009 年に日本人女性として初めて IBM のフェローに就任された方です。14 歳で全盲となった時に、このままでは何も進まない、現実を受け入れて進むしかないとの決意して盲学校に入り、自分には他に道がないのだから今出来ることをひたすらやるしかないとの思いで努力されたその先に、フェローへの道が開けてきたとのことでした。同じように、厚生労働省の村木厚子氏、ミャンマーのアウンサンスーチー女史、宇宙飛行士の山崎直子氏

に女性のひたむきさと目標に向かって困難を乗り越える強さを感じられた皆様も多いと思います。

1 年の計は元旦にありと申しますが、平成 22 年は「やるしかない」と位置づけました。今、私たちは公益社団法人申請の問題に直面していますが、これからの女性医師のためにも必要であると信じて認取得に向けて「やるしかない」と覚悟を新たにしています。最近の若い後輩女性医師のなかで、医師としてのひたむきな心を失って易きに流れている風潮には危惧を覚えます。それなりの事情はあるものの、今こそ私たちがひたすら「やるしかない」と頑張ってきた背中を見せることが、若い人の励みになると信じます。

来る 5 月 26 日（木）から 29 日（日）の会期で開催します第 10 回国際女医学会西太平洋地域会議は、総会との同時開催となっています。会員の積極的な参加が成功への大きな支えであり、日本女医学会の一層の発展の力となります。

本年も会員諸氏のご健勝とご多幸をお祈りして、年頭のご挨拶と致します。

社団法人日本女医学会は、平成22年10月26日の
子宮頸がん予防ワクチン全額補助の閣議決定を歓迎します。
今後は子宮頸がん検診の啓発と受診率向上のための推進活動を行います。

日本女医学会誌 (第205号) もくじ

巻頭言	津田喬子 (1)	女性と子供への暴力相談支援者のための公開講座	堀本江美 (10)
平成 23 年 念頭所感		子宮頸がん予防ワクチンについて	山田邦子 (11)
山口いづみ、青木正美、山崎康子、小栗貴美子、内坂由美子 (2)		どうしてワクチンは必要なの?	進藤百合子 (12)
報 告		私の大学「佐賀大学医学部」	浅見豊子 (13)
第 4 回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム	澤口彰子 (4)	アメリカ女性外科医学会に参加しての報告	川瀬和美 (14)
第 4 回 軽井沢セミナー	小関温子 (6)	支部だより「京都支部」	石川知子 (15)
軽井沢セミナー講演	溝口昌子 (7)	第 10 回国際女医学会西太平洋地域会議のご案内	(16)
軽井沢セミナーに初めて参加して	宮崎千恵 (8)	会員動静・寄付者一覧	(17)
委員会・市民公開講座報告		理事会議事録	(18)
子育て支援委員会	対馬ルリ子 (10)	第 56 回総会・新名簿の確認はがき・編集後記	(22)



平成23年 年頭所感



JOY2000

葛飾支部長 山口いづみ

支部長をお引き受けし、女性医師が何を考え、どのような行動をしているのかをフリートーキングするために、女性医師懇談会（JOY2000）を2000年に立ち上げました。

青井（葛飾）、大木田（北区）、加藤（荒川）、木下（足立）、多田（江戸川）、野原（足立）、野村（葛飾）、松峯（江東）、道永（墨田）、吉田（足立）、山口（葛飾）—敬称略—との第1回女性医師懇談会は7月1日（土）に開催されました。都医師会城東地区360名に案内を出して、49名の出席でした。

2年毎に各区が持ち回りで開催する、講師2名で2題の演題を聴講し、医療に役立つ、趣味に役立つ等の硬軟の演題2題を設定する等の骨子を作りました。アンケート項目作成や集計発表等を行い、当時の日本医師会常任理事の青井禮子先生に女性医師支援についてご理解を頂きました。「先輩女性医師からストレス解消法や勇気を頂いた」との出席者からの褒め言葉は世話人一同には有り難く感じました。しかし充分な活動とは言いがたく、世話人をお引き受け頂く事も、業務多忙、介護や疾病等の突発事項が多くて困難でした。最初の葛飾女医会メンバーも、医師会会長、副会長、理事と地区医師会の業務に追われて、途中はやむなくJOY2000開催を中止しておりましたが、2011年1月23日（日）に、ロイヤルパークホテルにて元日本医師会常任理事の西島英利先生の「日本の医療」と題する講演を開催いたします。郵送費の関連でご案内が届かない地区の方のご参加もお待ちしております。



天災ほど恐ろしい敵はない

東京都中央支部 青木正美

新年明けましておめでとうございます。

尊敬する地球物理学者であり俳人でもある寺田寅彦氏は、「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることは、なかなかむづかしい」と言いました。

今、世界の潮流が大きくなうねりを上げています。全世界的に政治・経済のパワーシフトが起こっています。一方で、地球全体に異常気象が続いています。つくづく、先の読めない時代に生きている事を実感する年の初めです。

こんな混沌とした世界情勢の中で、日本ではたった一つだけ予測可能な事柄が存在します。東海・東南海・南海地震の発生とこれに先行する内陸型地震群の発生です。しかし有効な解決策がなく、何をどこから手をつけていいかわからず、誰も責任が持てない話なので、本格的に何ひとつ議論されないまま、思考停止に陥ってしまっています。

寺田寅彦氏はまた「国家を脅かす敵として天災ほど恐ろしい敵はないはずである」と言っています。そろそろ、正当にこわがるべし、と、大きく鐘が鳴っていますが、皆さんには、聞こえますか？

対話を重んじる医療を心がけて

神奈川支部 山崎康子

あけましておめでとうございます。平成23年が会員の皆様にとって佳き年でありますように祈念申し上げます。

昨年の夏は熱中症の記事が新聞紙面に毎日掲載されていきました。同時に我が子への虐待→死亡という悲しい記事もまたかと思うほどに見られました。この夏の気候と共に、少しずつ人間の心情も悪化して

いったのでしょうか。

私は、医師として毎日患者さんに向かい合うとき、「いかがですか？お変わりありませんか」と言葉かけますが、何か一つ別の事を聞くように心がけています。たとえば、「幼稚園は楽しいの？」または「お孫さんたちはお元気？」とか、「最近何か良いことがありましたか」など。一言でも反応がえってくるるとほっとします。

横浜市ではAPECが開催され、多数の外国の政治家が対話を交わされたことでしょう。一件の事故も無く終了したことは日本が安全な国であることを世界に証明したものと思っています。誰とでも話合うことは大切です。

本部・支部の さらなる発展を

愛知支部長 小栗貴美子

みなさま、あけましておめでとうございます。

次々と新聞紙上をにぎわす不安極まりない出来事に、落ち着いた新年を迎えております。

昨年のお知には、四十数年の支部の歴史に残る特記すべきお目出度いことがありました。

日本女医会の第6代会長に津田喬子先生、副会長に山本續子先生がそろって当選したことです。平成6年の第3代会長・故佐藤千代子先生就任以来のことで、光栄の限りです。日頃からお二人の数々の活躍を近くでずっと見聞きいたしておりますので、このたびの就任には、支部一同心より喜んでおります。その上、細川美智子先生も本部の新理事として活動を始めています。

私どもは愛知県医師会の分科会の一つでもありますので、さる盛夏の一日、地元医師会の役員の先生方にもご参加いただき、にぎやかな祝賀会を催すことができました。その節には、前日本女医会会長の小田泰子先生のご臨席も賜り、含蓄のあるお祝辞をいただきました。まことにありがとうございました。

只今、支部の月一回の理事会には、津田・山本両理事と細川監事を交え、親睦を深め、また医療人として切磋琢磨するべく、充実した会議を進めております。

本年の本部、支部のさらなる発展を願いまして年頭のご挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新しいページの 開かれる事を祈って

長野支部長 内坂由美子

新年あけましておめでとうございます。

長野県は昨年新しく阿部守一知事が就任し、副知事は2人制とし、うち1人は女性を任ずるとの公約ながら、議会との関係でなかなか任命できずにいる事に表れている通り、理想と現実とのギャップの中で女性医師に対する対策も一進一退している状況です。

県庁の医師確保対策室に女性医師ネットワーク協議会がおかれ各情報を共有すると共に、医師不足の県内において女性医師が一人でも一日でも長く働き続ける模索がなされています。若い世代では医師の約30%が女性という時代となり、女性医師のキャリアの問題を医師個人の問題として片付けず、社会的課題として取り組んでいこうという方向性を示そうと一生懸命な状況です。一人一人自らの道を開拓していらした先生方からは、もどかしく思われるかも知れませんが、社会の構造的な変化もこの問題を個人の努力に帰する事が困難になっており、社会の制度を整えていく事は、急務と考えています。

県内には平成11年より甲南信の女性医師、薬剤師を中心とした「The Vivid」という女性医療者の集まりが元気に活動しています。又、飯田市には「皐月会」という女性医師の会があり、各月の勉強会と懇親会を行っています。

こうした様々な活動が一人でも多くの女性医師の活動・人生を輝かせてくれる事を願っています。患者さんの半分は女性です。女性にしか分からない喜び、悲しみ、苦しみに寄り添える人々が、多くの方々の為に働き続けられます様に願っています。その為県内で一つでも具体的な政策が立てられたらと思います。



初

【挿画】秋葉則子

報告

第4回 医学を志す女性のための キャリア・シンポジウム開催

女性医師支援委員会委員長 澤口彰子

第4回の女性医師支援のためのセミナーが2010年12月5日(日)、「女性と仕事の未来館(港区)」で開催されました。行政の領域からは厚生労働副大臣、厚生労働省審議官、医療の領域からは女性医師の就労環境改善に努力されている医師の方々、さらに国際的な視野も含めた領域からの講演者によって、有益な意見がありました。また今回は、医学生からの直接の発表と医師となつてからの就労環境改善を目的とする学生アンケート結果の報告がありました。

女性医師としての働き方は、結婚、出産、育児、高齢者の介護などのために、その過程で、男性医師とは種々異なり、空白期間もみられます。この就労環境改善のために、いろいろな対策・支援を考えていく必要があります。

但し、「21世紀の病院に求められるのはどんな医師か?」、「これからの病院医療を支えるキーパーソンを養成するには?」、「チーム医療のリーダーとして医療の質を高められる人材を目指すには?」、「管理職として知っておくべき組織運営や経営の基礎は?」などを考えると、女性医師だけでなく、男性医師およびすべての医療関係者にも就労環境改善が必要と考えられます。このことはパネリストのひとり、清野佳紀氏も指摘されています。行政面からは女性の就労環境改善のための試案、女性医師等就労支援事業についての説明がありました。

私たちが臨床・教育・研究について若手医師の指導に当たれる実力を持ち、他の専門職種とのスムーズ

プログラム

主催：社団法人 日本女医会
共催：女性と仕事の未来館、日本医師会
後援：厚生労働省、東京都医師会

<午前の部> 10:30 ~ 12:30

『世界に飛ばたく日本の女性医師達!』
(座長 山本續子副会長)
・世界の医療団について (エフテル・ブリュン：
認定NPO法人世界の医療団事務局長)
・英国女性医師事情
(川上玲奈：London 大学 King's College 医学部卒)
基調講演 「女性医師支援」
(小宮山洋子：厚生労働副大臣)

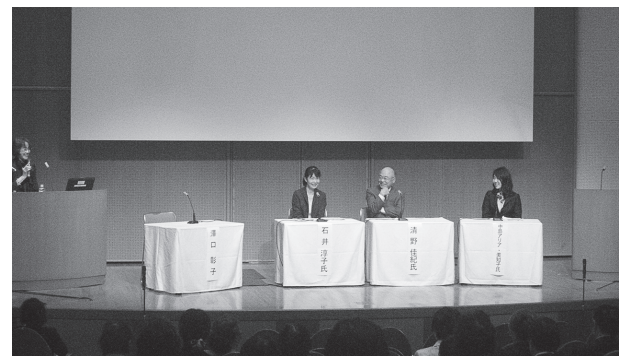
<午後の部> 13:30 ~ 16:00

『女性医師が仕事をなぜ辞める?』
(座長 藤川真理子理事)
学生アンケート分析 (前田佳子理事)
女性医師が仕事をやめる理由～
・大学病院勤務医の立場から (大谷智子理事)
・産婦人科クリニック院長の立場から
(対馬ルリ子理事)
・働く女性医師の今と昔(子どもの受験など)
(小関温子理事)

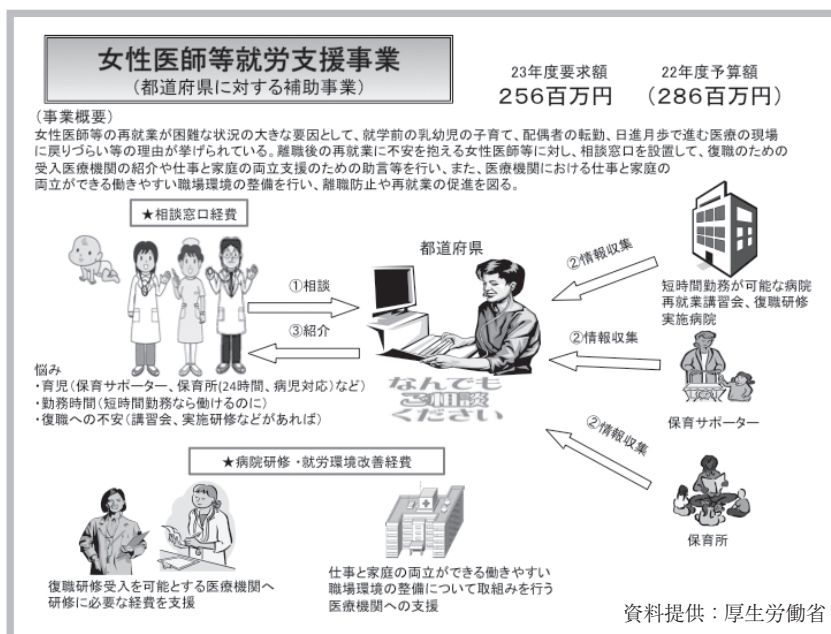
パネルディスカッション
『女性医師が辞めない職場とは』 (座長 澤口彰子理事)
・行政、病院長、医学生の立場・希望からのパネルディスカッション
(石井淳子：厚生労働省雇用均等・児童家庭局 審議官)
(清野佳紀：大阪厚生年金病院名誉院長)
(中島マリア・美智子：東京女子医科大学医学部5年)



小宮山厚生労働副大臣



パネルディスカッションの様相



な連携を可能にし、医療の質を高め、経営的な視点も理解できるキャリア医師になるためには、就労環境改善は必携ですが、医師としてのプロ意識、使命感も求められます。この素晴らしいプロ意識、使命感はご家族をロールモデルにして、パネリストの医学生が発表しました。また世界の医療団などにおける医療活

動や海外での医師としての活躍も、医師としての自己啓発になり、キャリア・アップにつながると考えます。

今後、医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム報告集をまとめ、行政、マスメディアに向けて、日本女医会の活動を広報したいと思っております。



アレルギー性疾患治療剤

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

アレグラ[®] 錠 30mg / 60mg

フェキソフェナジン塩酸塩製剤 ●薬価基準収載

allegra[®]

★効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、現品添付文書をご参照ください。

★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売: **サノフィ・アベンティス株式会社**
〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

sanofi aventis
Because health matters

報 告

第4回 軽井沢セミナー

庶務担当 小関温子

2010年10月30日(土)、31日(日) 軽井沢セミナーは第4回目を無事終了いたしました。

例年、天候には比較的恵まれていたことを記憶しておりますが、去年は台風が当日に訪れてしまいました。私は胃の痛くなる思いでしたが、欠席者は殆どなく新幹線のトラブルでも駆けつけてくださいました皆様から感謝いたしております。

石原幸子先生からは「4回目を迎える事が出来大変嬉しい、今後楽しい会として日本女医会の発展にもつながって頂きたい」とのメッセージを頂きました。松井副会長からは公益法人への移行について準備中であるとのお話を頂きました。ご参加いただいた理事からは各担当する仕事の内容をお話し頂きました。

講演は、2009年予定されていた溝口昌子先生にお願いしました。想像を絶するご病気から快復された先生のご講演「皮膚のアンチエイジング」(一シミ、シワの原因と対策)は皮膚の仕組みをわかり易く解説された、すばらしいお話でした。長年副会長としてご尽力された鹿田先生に座長の労をお勤めいただきました。外は台風でもホテルの中は食事をしながら楽しい語らいの場となり親睦の大切さも痛感しました。

懇談会では、軽井沢名産「花豆のおこわ」、新米、

新豆が、この会を立ち上げられた石原幸子先生から出席された先生方にプレゼントされました。また、先生方からは草加せんべいやお菓子などをお土産に頂き、楽しませていただきました。この場をおかりして御礼申し上げます。

10月31日は川村理事のご主人から優勝カップがプレゼントされ、前日からゴルフ組は「明日はお天気だそうよ」の言葉を半信半疑で信じようと楽しみにしていましたが、今回ばかりは寒さと霧雨、若い池田先生、高木先生を除いてはハーフでギブアップして昼食で話に花が咲き、来年は晴天になる事を願いました。



参加理事からの、ひとことメッセージ

- * 盛会で、女医会の先生方のお話のパワーアップ! 溝口先生のアンチエイジングの学術講演もすばらしかったが、先生のお人柄と美しさの秘訣に接せられたことは女医会ならではの魅力! 極秘情報が得られ、自分磨きの場として継続して頂きたい。(山田邦子)
- * 軽井沢は初めてですが、軽井沢だからこそ素晴らしい!(宮本治子)
- * 第4回セミナーは最高! お元気で美しい溝口昌子先生の「美肌」のお話に引き込まれました。「脂ぎったジイさんはいるが脂ぎったバアさんはいない」には納得でした。親友と優雅に軽井沢を散策、小雨の鬼押し出し、鳩山、田中、石橋家など紅葉の小路...(山崎トヨ)

出席者: 木村あさの(青森)、渡部光子(宮城)、中山年子・溝口昌子(中野)、鹿田儀子(北)、村田郁・吉崎喜美子(埼玉)、石原幸子(練馬)、中原千恵子(文京)、松井ひろみ(目黒)、藤川真理子(都下西)、山田邦子(群馬)、岩本淳子(茨城)、馬場恭子(福島)、新井寧子・塚田篤子・馬場安紀子・菊池洋子・山崎トヨ(栃木)、池田由里子・高木久佳・中島幹恵・富岡瑞子・小関温子(神奈川)、宮本治子(大阪)、宮崎千恵(岐阜)、門田正枝(岡山)、中井紀子・滝沢美奈子

計 29 名出席 敬称略

今年もおめもじできます事を楽しみにしております。

報告 軽井沢セミナー講演

「皮膚のアンチエイジング

—シミ、シワの原因と対策」中野支部 溝口昌子



昨年（2009年）の軽井沢セミナーを、緊急入院のために突然キャンセルしてしまい、皆様に多大なご迷惑をおかけしたことをまず深くお詫び申し上げます。今年の第4回軽井沢セミナーで講演させて頂く事が出来ましたことを大変嬉しく思っております。

さて講演内容ですが、高齢化社会を迎えてアンチエイジング学会も出来、各領域で研究が進んでおります。皮膚科も例外ではありません。そこで、皮膚科領域のアンチエイジングを取り上げました。

皮膚は成人の平均で重さ9kg、面積1.8m²。人体最大の臓器です。身体全体を被い体内を守る壁のような役割をするだけでなく、皮膚自体が吸収・排泄、免疫・アレルギー反応など様々な機能を持っています。

皮膚は、体外からは紫外線、乾燥などの影響を受けて、体内からは遺伝、加齢、本人が罹患している疾患や内服している薬剤などの影響を受けて、様々な変化します。加齢による老化だけでなく、紫外線による光老化が加わるのも他の臓器と異なることです。こうした変化が、本人だけでなく、他人からみえてしまうのも皮膚の特徴です。今回は皮膚老化の象徴とも言えるシミ、シワについてお話し致しました。

シミと言われるものは多種ありますが、今回は「老人性色素斑」を取り上げました。発症に日光照射（紫外線）が深く関わるため、「日光黒子」とも呼ばれます。顔、手背、前腕など日光に当たる部分に好発し、スカートを着用することの多い女性では下腿にも見られます。加齢とともに発症頻度が高まり、60歳を超えるとほぼ100%の人にみられます。病気ではなく皮膚の生理的な加齢現象の1つです。

扁平で、ほぼコインサイズの黒褐色斑を呈することと、雀卵斑のような小さい斑のことがあります。多くの場合、両者は混在してみられます。

治療はQスイッチルビーレーザーで綺麗に治すことができます。レーザー照射後に炎症後色素沈着を生じることもありますが、3～4ヶ月で消退します。2～3年後に一部が再発することもあります。再びレーザー照射により治療すれば問題はありません。医薬部外品である美白剤は肝斑と言うシミには有効ですが、老人性色素斑では二重盲検法で有意な改善を

示した報告はありません。

シワは自然の加齢に加えて紫外線も影響して生じます。さらに喫煙もシワの形成に影響することが知られています。特に女性が強く影響を受けることが示されています。

シワの治療法ですが、レチノイン酸の使用が許可されていない日本では、化粧品や医薬部外品で、二重盲検法により有効性が証明されたものはありません。優れた保湿剤ですと、一時的に乾燥によるシワを目立たなくすることは出来ますが、単に目立たなくするだけです。メスを使用しないプチ整形と言われるヒアルロン酸注入、コラーゲン注入、ボツリヌス毒注射などは有効ですが、いずれも6ヶ月位で元に戻りますので、繰り返し行う必要があります。手術はタルミなどにも有効ですが殆どの場合、全身麻酔が必要です。

予防はシミもシワも紫外線防御に尽きます。地上に降り注ぐ紫外線（ultraviolet, UV）は波長によりUVA、UVBに分けられています。UVAはシワの原因になりますし、照射後すぐ黒くなるサンタンもUVAの影響です。UVBは真っ赤な日焼け（サンバーン）、日焼け後の色素沈着、シミ、皮膚がん発症などに関連します。ビタミンDの合成に関わるのもUVBですが、晴れた日に、日光に10分位当たれば十分と言われています。帽子、UVカット傘、UVカット衣料などが直射日光には有効ですが、顔では散乱光、反射光にも対応するために日焼け止め（サンスクリーン）が必要です。

サンスクリーンの効果の指標として、UVBに対してはSPF、UVAに対してはPAが使われます。日常生活ではSPF15以上、PA+以上で十分ですが、山登り、ゴルフ、テニスなどの戸外のスポーツではSPF40以上、PA+++が必要です。いずれにしる、



歌舞伎役者になったつもりで厚く塗らないと表示された効果は期待出来ません。また、紫外線吸収剤を含むサンスクリーンをケミカル、これを含まない、紫外線散乱剤のみのサンスクリーンをノンケミカルと言いますが、かぶれやすい人にはノンケミカルが安全です。紫外線は子供の時に一生で浴びる紫外線の4分

の1を浴びてしまうと言われていいますので、子供の時から紫外線防御を心がける必要があります。

皮膚は「全身の鏡」と言われるほど、体内の影響を受けますので、皮膚を若く美しく保つためには、健康であることが最も大切であることは言うまでもありません。

軽井沢セミナーに初めて参加して

岐阜支部 宮崎千恵

軽井沢は、私が生まれる前に、母が万平ホテルに何度か泊まってゴルフや乗馬をして楽しかったことを聞いていたので、一度行ってみたいと思っていました。今回、やっとその機会にめぐり合えました。軽井沢駅に到着したときは、すでに薄暗く、雨も降っておりましたが、あたりの木々の紅葉がうっすらと色づき、秋の哀愁を感じました。



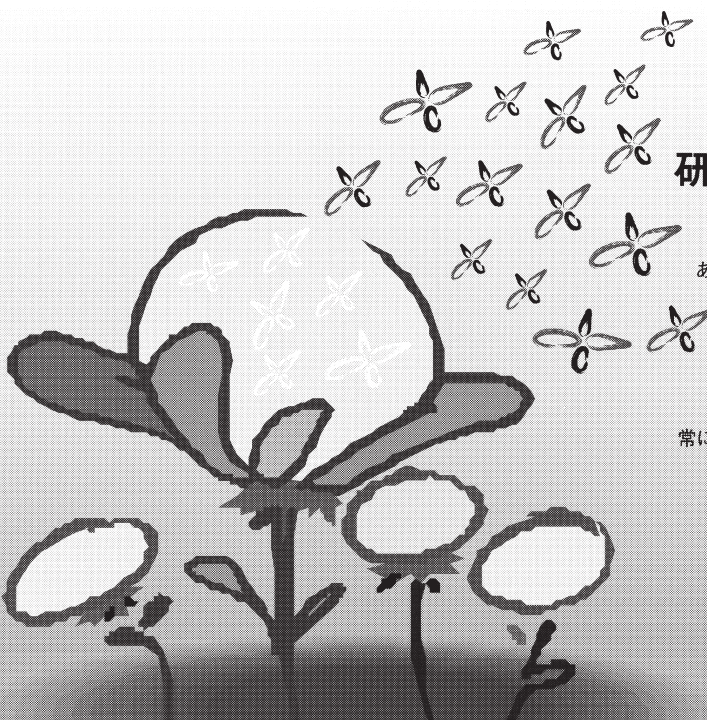
溝口先生は、今年の総会でお目にかかったときより、お肌のつやもよく、一層お元気そうでした。講演の内容は、私たち皮膚科でない医師にとっても大変わかりやすく、しかも中高年の女性がもっとも知りたいお肌のケアについて、的確に、簡潔に講義がなされ、さすがに名教授だと感銘いたしました。


その中でこのセミナーを今後、日本女医会のなかでどのように位置づけていったらよいか、ぜひ今後もこの会が存続してほしいなど活発な意見交換がありました。参加していた副会長や理事たちはこうした会員の意見を重く受け止め、理事会に伝えなければと、会が終了した後話し合いました。

翌日は雨でしたが、万平ホテルに行き、ダイニングからの紅葉を眺めながら、ランチをいただきました。資料室に陳列してある、古いバスタブやワイングラスなども、ひょっとして母もこのワイングラスでワインを飲んだかも知れないなどと感傷に浸りながら、ホテルをあとにして、午後の新幹線で帰路に就きました。

未来に向かって絶え間ない 研究開発に取り組むあすか製薬です。

医薬品の世界は、日進月歩のスピードで変化しています。
あすか製薬は、新薬開発型企業として持続的に成長・発展していくため、
蓄積された技術と経験を活かし、
バランスの良い研究・開発体制の確立を目指しています。
また、開発分野の選択・集中による資源の有効活用、
導入による早期開発を推進するなど、研究開発力を強化しています。
常に先を読み、新しい医薬の開発を目指すあすか製薬にぜひご注目ください。



 **あすか製薬株式会社**

<http://www.asuka-pharma.co.jp/>
〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号 Tel.03-5484-8361(代)



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

がんはワクチンで 予防できる時代へ。 はじめてください、子宮頸がん予防*。

*ヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)2及び3)の予防



【接種不適当者】(予防接種を受けることが適当でない者)
被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはならない。
(1)明らかな発熱を呈している者
(2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
(3)本剤の成分に対して過敏症を呈したことがある者
(4)上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

【効能・効果】

ヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)2及び3)の予防

効能・効果に関連する接種上の注意

(1)HPV-16型及び18型以外の癌原性HPV感染に起因する子宮頸癌及びその前駆病変の予防効果は確認されていない。(2)接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPV関連の病変の進行予防効果は期待できない。(3)本剤の接種は定期的な子宮頸癌検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸癌検診の受診やHPVへの曝露、性感染症に對し注意することが重要である。(4)本剤の予防効果の持続期間は確立していない。

【用法・用量】

10歳以上の女性に、通常、1回0.5mLを0、1、6ヵ月後に3回、上腕の三角筋部に筋肉内接種する。

用法・用量に関連する接種上の注意

他のワクチン製剤との接種間隔：生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。

【接種上の注意】

1. 接種要注者(接種の判断を行うに際し、注意を要する者) 被接種者が以下に該当すると認められる場合は、健康状態及び体質を勘案し、診察及び接種適否の判断を慎重に行い、予防接種の必要性、副反応、有用性について十分な説明を行い、同意を確実に得た上で、注意して接種すること。(1)血小板減少症や凝固障害を有する者[本剤接種後に出血があらわれるおそれがある。](2)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者(3)予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者(4)過去に痙攣の既往のある者(5)過去に免疫不全の診断がなされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者(6)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人[妊婦、産婦、授乳婦等への接種]の項参照]

※ 2. 重要な基本的注意 (1)本剤は、「予防接種実施規則」及び「定期の予防接種

製造販売元(輸入)

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15

実施要領」を参照して使用すること。(2)被接種者について、接種前に必ず問診、検温及び診察(視診、聴診等)によって健康状態を調べること。(3)被接種者又はその保護者に、接種当日は過激な運動は避け、接種部位を清潔に保ち、また、接種後の健康監視に留意し、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、痙攣等の異常な症状を呈した場合には、速やかに医師の診察を受けるよう事前に知らせること。(4)ワクチン接種後に血管迷走神経反射として失神があらわれることがあるので、接種後30分程度は被接種者の状態を観察することが望ましい。(5)本剤シリンジのキャップ及びプランジャーには天然ゴム(ラテックス)が含まれている。ラテックス過敏症のある被接種者においては、アレルギー反応があらわれる可能性があるため十分注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること) 免疫抑制剤

4. 副反応 国内臨床試験において、本剤接種後7日間に症状調査日記に記載のある612例のうち、局所(注射部位)の特定した症状の副反応は、疼痛606例(99.0%)、発赤540例(88.2%)、腫脹482例(78.8%)であった。また、全身性の特定した症状の副反応は、疲労353例(57.7%)、筋痛277例(45.3%)、頭痛232例(37.9%)、胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)151例(24.7%)、関節痛124例(20.3%)、発疹35例(5.7%)、発熱34例(5.6%)、蕁麻疹16例(2.6%)であった。海外臨床試験において、本剤接種後7日間に症状調査日記に記載のある症例のうち、局所(注射部位)の特定した症状の副反応は7870例中、疼痛7103例(90.3%)、発赤3667例(46.6%)、腫脹3386例(43.0%)であった。また、全身性の特定した症状の副反応は、疲労、頭痛、胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)、発熱、発疹で7871例中それぞれ2826例(35.9%)、2341例(29.7%)、1111例(14.1%)、556例(7.1%)、434例(5.5%)、筋痛、関節痛、蕁麻疹で7320例中それぞれ2563例(35.0%)、985例(13.5%)、226例(3.1%)であった。

局所の上記症状は大部分が軽度から中等度で、3回の本剤接種スケジュール遵守率へ影響はなかった。また全身性の上記症状は接種回数の増加に伴う発現率の上昇はみられなかった。(承認時) **(1)重大な副反応 ショック、アナフィラキシー様症状(頻度不明^{※1})**:ショック又はアナフィラキシー様症状を含むアレルギー反応、血管浮腫があらわれることがあるので、接種後は観察を十分にを行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
注1) 海外のみで認められている副反応については頻度不明とした。

●その他の接種上の注意等については添付文書をご参照ください。

※2010年2月改訂(第2版)

ウイルスワクチン類

薬価基準未収載

生由来製品 劇薬 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

サーバリックス®

Cervarix® 組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン (イラクサギンツワ細胞由来)

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL : 0120-561-007(9:00~18:00)/土日祝日および当社休業日を除く
FAX : 0120-561-047(24時間受付)

2010年8月作成



子育て支援委員会 ゆいネット活動報告

子育て支援委員会委員長 対馬ルリ子

ゆいネットは、親や教師が対応に苦慮する若者の性の問題について、健康支援・健全育成・犯罪防止の立場から、医療・保健・教育・警察組織を横断する地域ネットワークを構築するものです。札幌・盛岡・名古屋・岡山の4モデル地区に加えて、このたび、岐阜・茨城の2地区でも連絡協議会を行いました。

10月23日には、岐阜で宮崎千恵先生のバックアップのもとに廣瀬玲子先生を中心に70名以上の関係者が集まり、ゆいネット連絡協議会が開かれました。岐阜では初めての試みでしたが、大学産婦人科教授、県教育委員長なども参加され、とても盛大で熱気のこもった会となりました。これも宮崎先生の広い人脈と廣瀬先生が続けてこられた思春期相談・性教育活動のたまものであると感激いたしました。

続いて、11月20日に名古屋ゆいネットが開かれました。これまでは参加者集めに苦勞していたのですが、今回は、若さと熱意あふれる丹羽咲江先生が

地域ゆいネット委員の鬼頭さんとともに中心になって動いてくれたおかげで、津田会長のお膝元にふさわしい大きな会になりました。前日、「ゆいネット対応マニュアル作り」のために、これまで各地で報告された症例をまとめて検討していたので、委員からもより具体的なゆいネット活動報告ができたと思います。

11月28日には盛岡ゆいネット、いわて思春期研究会との共催で、岡山ウイメンズクリニックかみむらの上村茂仁先生、盛岡少年刑務所の八木淳子先生のお話を基調としたシンポジウムを行いました。斎藤恵子先生の人脈と、産婦人科医会の小林高会長、県立二戸病院の秋元義弘先生、県立看護大学の福島裕子先生にも協力いただき、たいへんよい会になりました。12月4日は茨城ゆいネットのはじめての会を和田由香先生の尽力で開催できました。県の思春期保健、ロータリークラブ、青年海外協力活動の方々と情報交換する会にすることができました。

これからも、ゆいネット活動はそれぞれの地域で根付き、育っていくと思います。助成の有無にかかわらず、日本女医会の大事な事業として、思春期の健康支援を続けていきたいと思っています。

日本女医会助成事業 市民公開講座

●「女性と子供への暴力相談支援者のための公開講座」を開催して

北海道支部 堀本江美

早いもので、日本女医会の子育て支援委員会「ゆいネット」が発足して3年目となりました。2010年は、さらに進化を遂げ、会議室を飛び出し、現在進行形で子どもの相談支援に関わっている方々のスキルアップと、今後、子ども達の支援ボランティアになりたい方の養成を目的に平成22年7月3、4日に公開講座を開催する運びとなりました。

「ゆいネットは子ども達を守り支援して行こう!と熱い思いを持った方々が一堂に会する素晴らしい会になった。この会を持続発展させなければならない」という北海道支部長の守内順子先生の情熱で皆さんの心がひとつになり、地域での活動の一步として計画しました。

ゆいネット札幌会議の懇親会の場では、「児童会館でボランティアをしてくださる善意の方々が多いが、

健康知識や公的な支援の受け方およびカウンセリングの基本などの基礎知識すら、勉強の機会が無いこと」が話題に上がりました。

ゆいネット札幌会議参加者が、講師として手を上げてくださり、大変充実したものとなりました。札幌児童相談所の職員が「子どもの虐待の基礎知識とケアの現状」について10の事例を取り上げ、グループ討議を通じて、愛着障害、感情コントロールの問題、親への複雑な思い、など様々な子どもの問題について講義を受けました。児童会館を運営する札幌市青少年女性活動協会の職員は、具体的な子どもとの遊び方を伝授してくれました。簡単なゲーム、手指を使う遊び、昔遊びなどなど、とても楽しいものでした。長年、DVの事例に関わってきた家裁の調停委員の方の「DVにはあらゆる刑事犯罪が含まれている。DVは子どもの心身の成長に多大な影響を与える。心理的外傷を与える」という言葉には衝撃を受けました。札幌市アシストセンター救済委員からは「心とは何か」と問われ、現代を生きる私たちの環境そのものが苛酷

であり、思春期の放任や孤食の増加は、子どもの心の問題を深刻化し、子どもの問題は学校で顕在化すること、教師の求心力が低下していることなど、学校でのストレスが大きくなっていることなどを学びました。他にも人格を形成する性教育の重要性や相談を受けたら必ず日付のメモをとることを忘れないことなど、重要で基本的な知識のシャワーを浴びました。司法面接や性暴力支援センター大阪のお話を聞く機会もあり、素晴らしい会となりました。参加者はきっと頼りになる相談支援者となることでしょう。

今回の講習会はC&Fセンターの小野寺るみ子さんのご尽力で14もの講演をこなすことが出来、感謝いたしております。ゆいネット委員会の皆様からのメールも励みとなりました。皆さま有難うございました。

●子宮頸がん予防ワクチンについて

理事 山田邦子

平成22年11月3日(文化の日)市民公開講座『子宮頸がん予防ワクチンについて』を、前橋市にて開催しましたので、報告します。

主催：群馬県女医会

共催：日本女医会 群馬県医師会

後援：前橋市 上毛新聞社 前橋市医師会
前橋市産婦人科医会 前橋市小児科医会
前橋市内科医会

助成：日本女医会 群馬県医師会 前橋市医師会
日時：平成22年11月3日(日) 13:00～15:00

場所：前橋テルサ大ホール

対象：前橋市在住の中学一年生女子と保護者(特に母親)、10歳から45歳までの女性、HPVワクチンに関心のある方、医療関係者

講演：『HPV感染予防ワクチンをめぐって』

講師：いささか産婦人科医院副院長

家坂清子先生

子宮頸がん予防のために、HPV(ヒトパピロウイルス)感染予防ワクチンが、日本で認可されたのは、平成21年10月で、同12月から接種開始されている。

当初から任意接種のうえ全額自己負担でもあり、低い普及率であった。

がん予防ワクチンとして初めて有効性の期待される画期的なワクチンであるが、知名度の低さと、3回接種料金の高さが、ネックになっており、日本女医会を始め各地の女医会では、一般への普及活動と、行

政への助成要望活動を行っている。群馬県女医会では、平成22年度事業として市民公開講座『子宮頸がん予防ワクチンについて』を計画した。

計画を準備している段階で、7月中旬に前橋市長から「前橋市では、中学1年生の女子全員を対象に、HPVワクチン3回接種代金全額45,000円/人を助成する」と発表があり、市民公開講座での啓蒙活動に弾みがついた。

平成22年9月末に、前橋市教育委員会から、市内の中学1年生女子全員にHPV予防ワクチン接種問診票が配られたが、このときに、群馬県女医会主催の市民公開講座「子宮頸がん予防ワクチンについて」のチラシ(写真①)の配布依頼を、1年女子全員と教師に教育委員会校長会を通して行った。

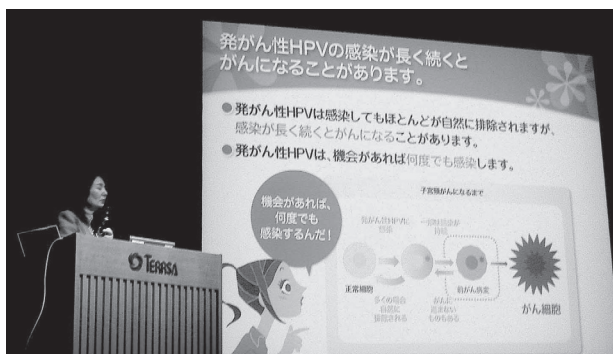
また、前橋市医師会会員全員、前橋保健所、保健センター、市内及び近隣の公・私立高等学校、大学、専門学校、看護学校、市役所記者クラブにチラシを6,000枚配布した。地域の有力紙である上毛新聞には、1週間前に紹介記事が掲載された。

講演会は、地元出身である講師の紹介から始まった。家坂清子医師は、日本思春期学会、日本性感染症学会、NPO法人「子宮頸がんを考える市民の会」等で理事を務める地域の著名人である。昭和59年からは、幼稚園から大学、PTA、教育委員会等に、性教育や女性の健康に関する出張講演を行っている。

講演(写真②)は、まず、講師が医師になったばかりの体験談から始まった。「初めて受け持った患者さんは、28歳の妊娠初期の健診で子宮がんが見つかった方で、二人の小さな女の子を残して亡くなりました」。会場の若い女性はみなシ～ンと聞き入った。子



写真① 公開講座チラシ



写真② 講演

宮のがんには、子宮頸がんと子宮体がんがあり、子宮頸がんの原因はHPVウイルス感染によるもので、20～30代を中心に若い層に多いこと、このウイルスは、ワクチンで予防可能であること、さらにワクチンはより効果的な多価のワクチンが開発されつつあること、ワクチンは、3回接種が必要であること、初性交前の13歳頃の接種がよく、ワクチンの反応も良いことなどを話された。

そして20代からの子宮がん検診の重要性について強調された。また初期の子宮頸がんは機能を損なうことなく治療できるにもかかわらず日本の子宮がん検診率は、欧米に比べて遥かに低く、20%くらいとのこと。若い層はもっと低い。

そして最後に、「あのとき遺されたお嬢さんはもう小学生の子供さんを持っていて、このワクチンの事をどのように思っているのかと感慨深く思う」と締めくくられた。

場内と、質問箱からのおもな質疑応答は以下のとおり。

- ① 四価のワクチンが、来年くらいを目処に治験されている。
- ② 10歳から受けられるが、初経前でもよい。
- ③ 30歳でも受けてよい。性経験があるならがん検診も受けると良い。
- ④ 中学1年生だが、受けたら翌日に38.5度の発熱があった。解熱剤を使用して1日で下がったが、また受けると熱が出るのか心配→答え：体質かもしれない。心配なら中断して、20歳から子宮がん検診を受けるように勧める。
- ⑤ いつから公費になるのか、国会で予算は検討されている。中学1年生が対象になるだろう。希望すれば誰でも受けられるが、5万円位する。おばあちゃんから孫へプレゼントとして費用を出してもらったという方もいた。
- ⑥ 産婦人科でなくても、契約機関ならどこでもよい。その他多くの活発な質問で講演会は終了した。

終了後も、講師に、保健指導教諭や学校関係者の熱心な質問があった。

HPVワクチンの接種率の高まることを願って、報告を終わります。

● どうしてワクチンは必要なの？

— 現在、世界で使われているワクチン —

進藤百合子

平成22年11月7日、街路樹の紅葉が美しく青空に映えた日、午後2時より仙台市医師会館にて宮城県女医会主催の市民公開講演会が開催されました。

演題は“どうしてワクチンは必要なの？— 現在、世界で使われているワクチン—”，講師は前仙台市副市長で健康予防政策機構代表取締役の岩崎恵美子先生です。お話は耳鼻科医でいらっしゃる先生が公衆衛生の分野にとびこみ、インドやタイ、ウガンダでのWHOの活動を通し、予防医学の大切さ、特にワクチンの大切さを痛感なさったことから始まりました。一生に一度医者にかかれるかどうかかわからないほど貧しい人たちにとって、WHOによるワクチン接種は晴れ着を着てやってくる大切な日なのだそうです。彼らはそうやってワクチンによる予防をしなければ、医療を受けるお金はありません。一度に数か所に、何種類かのワクチンを打つのだそうです。非常に印象的なお話でした。

以下は岩崎先生によるご講演の要旨です。

『昨年は、新型インフルエンザの流行で俄かにワクチンが注目された。先頃、メディアで「日本はワクチン後進国……」と報道され、日本での乳幼児期に受けるワクチン接種の種類も、回数も国際基準に達していず、先進国に比べて大きく遅れていることが国民に明らかにされた。国はようやく、先進国では既に定期接種となっている、Hib（インフルエンザ桿菌）ワクチン、子宮頸がんワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン接種の公費助成を検討し始めた。



現在、乳幼児のワクチンは行政主導で実施され、さまざまな事情で、ワクチンの全スケジュールを受けていない人も多く、その結果、国民の感染症に対する免疫が低下し、流行が発生しやすい状態になっており、4年ほど前に東京の大学生の間で麻しんが流行したことも明らかになった。また、国際交流が進み日本人が海外に感染を拡げる可能性はますます高くなり「日本は麻しんの輸出国」と非難されているのも事実である。

地球上では、現在もさまざまな感染症が流行してい

るが、その状態を回避し、感染症の流行やそれによる健康被害を減らすためには、国民が進んでワクチンを受けるような基盤を作るためにも、感染症やワクチンに対する正しい知識を国民に啓発する必要がある。』

座長は小児科医である鈴木カツ子宮城県女医会会長が勤められました。興味ある話題を分かり易くお話しいただいたため、あっという間の1時間半でした。フロアからも現実に即した質問が次々に出され、この話題の持つ重要性を改めて感じさせられました。

私の大学 佐賀大学医学部

佐賀支部 浅見豊子



佐賀県の人口は約85万人。九州北西部に位置したこの「佐賀」の名称の由来は、日本武尊が御巡幸の時、樟（くす）の栄え繁る有様を見、「この国を『栄の国』と呼ぶがよからう」、といったことによるとされています。今は、伊万里・有田の陶磁器や吉野ヶ里遺跡、あるいは嬉野茶や佐賀牛などで知られる佐賀県ですが、その県庁市所在地である佐賀市に佐賀大学医学部があります。

創立は昭和51年、佐賀医科大学という単科大学としてのスタートでした。平成15年に佐賀大学と統合され佐賀大学医学部となりました。以前より女子学生の割合が多く、その比率が50%弱を占めることもありましたが、平成22年の女子入学者は106名中43名40.6%で、ここ数年の女子学生比率は40%前後という数値を示しています。

昨今、各方面で女性医師支援の活動が盛んに行われていますが、当大学における女性医師支援活動も少しずつ前進しています。学内における最初の取り組みは平成20年4月の医学部敷地内保育所新設でした。

そして平成21年6月に佐賀大学医学部・医学部附属病院女性医師部会発足。平成21年12月に女性医師当直室の改装・移転。平成22年3月には女性専用シャワー室の設置などがなされてきました。

また、学外と連携した取り組みとしては、平成21年度文部科学省『女性研究者支援モデル育成』科学技術振興調整事業「三世代サポート型佐大女性研究

者支援」の採択を受け、「かささぎサポートラボ（女性研究者支援室）」が平成21年7月に設置されました。この事業の一つとして、女性研究者支援のための研究補助員雇用が平成22年4月より始まり、妊娠・育児・介護中の女性医師に対しても業務支援がされています。

他には、病児・病後児支援として平成21年10月にコーディネーターが採用され、同年12月より本格的な活動が始まっています。

さらに佐賀県からの委託事業として、平成22年10月より「女性医師の復職支援のための相談窓口」が医学部内に設置されました。これは、離職中で医師としての復職を希望している女性医師（施設勤務などで臨床業務から離れているが臨床に復帰したい女性医師も含め）に対して、ヒアリングと各人の希望に応じた復職支援計画の作成、（復職にあたって短期研修が必要な場合）研修受け入れ病院・診療科の紹介および連絡・調整、保育所や育児支援サービス等の紹介、復職希望者のメンタルサポートなどを行うものです。

このように地方大学においても、女性医師の環境は少しずつ整備されてきているわけですが、この環境を女性医師が十分に活かすためにも、女性医師同士が互いの立場を思いやり、女性医師という職業に誇りと責任を持って仕事をするといった女性医師自身の自覚が必要であると感じます。女性医師自身の自覚と環境整備とが相まってはじめて、女性医師の様々な問題は解決していき、そこに女性医師としての輝きが見出せるのではないかと考えています。

現在私は、日本女医会佐賀支部、佐賀大学女性医師部会、日本リハ学会リハビリテーション科女性専門医ネットワーク委員会などにおける活動に関わらせていただいています。今後も、女性医師支援に対していろいろな側面から、少しでもお手伝いが出来れば幸いに思います。



アメリカ女性外科医会に参加しての報告

東京慈恵医科大学外科学講座 医学博士

川瀬和美

The National Press Club は 1960 年の大統領選挙の時にニクソンとケネディが討論したことで世界的に有名なところです。2010年10月4日(木)の夜、120名を超える参加者のもと、第29回アメリカ女性外科医会 (Association of Women Surgeons: AWS) の毎年恒例の授賞式を兼ねた晩餐会が開かれました。

6名の受賞者は、女性外科医の躍進に向けてリーダーシップを発揮した Dr. Julie Ann Freischlag (Johns Hopkins Medical Institutes, JHMI) , AWS の理念や使命を実現した Dr. Gayle Woodson (Southern Illinois University School of Medicine)、AWS の目標達成のために協力した Dr. Lasalle D. Leffall, Jr. (Howard University)、将来女性外科医のリーダーとなる資質を評価された2名のレジデント (Dr. Elizabeth David と Dr. Victoria Stager)、外科領域での研究で将来のリーダーシップを期待され

る医学生 Shelly Choo さん (JHMI) でした。いずれの方々も信念と将来への希望に満ちあふれ、参加者に勇気を与えるスピーチをして大いに盛り上がりました。



左から萬屋、富澤、Sanfeyの各先生と筆者

Dr. Hilary Sanfey のご招待により、日本女性外科医会 (JAWS) から代表世話人の東京女子医科大学・富澤康子先生、世話人の愛知医科大学・萬谷京子先生および私の計3名が参加させていただきました。会の途中で AWS のメンバーに一人一人、ご紹介いただきました。2011年には、AWS 設立30周年の会がサンフランシスコで開催されます。

女性外科医ということで AWS のメンバーとも組織的な交流を持つことができました。2011年8月末に横浜で開催される第30回万国外科学会では JAWS と AWS のジョイントセッションが計画されており、女性外科医の国際交流を更に深めていきたいと思っております。



ざ瘡治療薬

処方せん医薬品^注 外用抗生物質製剤

薬価基準収載

ダラシン[®] Tローション1%

Dalacin[®] T Lotion 1% クリンダマイシンリン酸エステル製剤

注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

■効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 **佐藤製薬株式会社**

東京都港区元赤坂1丁目5番27号

資料請求先: 佐藤製薬株式会社 医薬事業部

平成22年9月作成

■支■部■だ■よ■り■

京都支部の集い

京都支部長 石川知子

御所の西隣、毎夏吹き抜けのホールでのリレコンサートで有名な京都ブライトンホテルで、平成22年3月7日（日）に「京都支部の集い」を25名の参加で行いました。副支部長の森本博子先生の司会で、若い女子医学生、はじめての参加の先生、新たに入会の先生とご一緒させて頂くことが出来ました。

京都大学・婦人科産婦人科学の小西郁生教授に「子宮癌からヒト性の進化を探る」と題してご講演いただきました。教室の初代から歴代の教授のテーマについて、また、各教授のエピソードを交えて、すっかり参加者を教室員の気分に浸らせながら、お話を進められました。さらに「愛」について、婦人科産科学の立場から、きわどい話はさらに英語でかわされながらソフトに話される姿は、さすが女性を専門とされるだけあるなーと感心しました。

楽しいお話の余韻が残るなか、部屋を変えて、金屏風の前で、全員スマイルの記念撮影。そして、数々のおいしいバイキング料理を頂いているなかアコーディ

オンをひきながら内科医・鈴鹿隆之先生が登場されました。先生は、青春賛歌コンサート等の作曲部門で入賞、NHK-FMにも出演されたことがあります。エレクトーン、シンセサイザーを巧みに演奏しての世界一周の音楽巡りを楽しんだ後は踏切警報機の研究でも有名な先生は、私達がローカル電車に乗ったような気分で車内放送を取り入れての音楽の旅。最後には新しく取り組んでいる南国の木琴を夢中で弾いておられる楽しい姿に一同感動しました。会の終わりには恒例の福引があり、1等賞は特大スペシャルケーキ、2等・3等は小さいスイーツの詰め合わせ。参加者全員には京ラスクをお土産に来春の再会を願ってお開きとしました。

曲水へ賀茂の深山の雪解水

松田郎三



選択的ヒスタミンH₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 薬価基準収載

タリオン® 錠5mg・錠10mg
OD錠5mg・OD錠10mg

TALION® Tablets 5mg・Tablets 10mg (ベトラスチンベシル酸塩製剤)

TALION® OD Tablets 5mg・OD Tablets 10mg (ベトラスチンベシル酸塩口腔内崩壊錠)

処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

提携
宇部興産株式会社

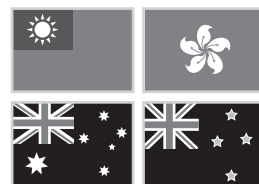
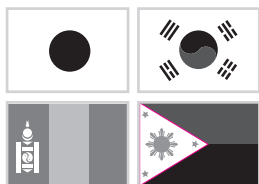


製造販売元(資料請求先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区北浜2-6-18

2010年5月作成

第10回

国際女医会 西太平洋地域会議のご案内



新たな年を迎え、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

今年は、いよいよ日本女医会にとりまして、一大行事である第10回国際女医会西太平洋地域会議が5月26日から29日まで、東京・京王プラザホテルにて開催されます。本地域会議のメインテーマは、「感染性、非感染性のパンデミック」です。

5月26日夜は、日本女医会会員懇親会を兼ねたWelcome Get Together Partyが催されます。

5月27日の華やかな開会式（オープニングセレモニー）後の特別講演では、東北大学大学院医学系研究科病理病態学講座微生物学分野の押谷仁教授をお招きすることになりました。

また基調講演として、5月28日に、日本赤十字九州国際看護大学学長の喜多悦子先生から「難民・紛争における国際保健とは？—With international preservation of health in a victim and trouble」を、また株式会社資生堂の岩田喜美枝氏から「一瞬も一生も美しく—This moment. This life. Beautifully.」をご講演いただくことになりました。

5月28日の夜には、Gala Party（地域会議懇親会パーティ）も開かれます。

国際女医会の西太平洋地域には、本邦以外に、韓国、台湾、香港、オーストラリア、ニュージーラン

ド、フィリピン、モンゴルが属しており、各国の女性医師たちも数多く参加されます。

各国からの代表から成る International Scientific Committee も発足いたしました。また、Young doctors & Medical Students 部門も設立し、優れた発表者への表彰もあります。まだまだ、サプライズ企画も用意しております。

今年の第56回日本女医会評議委員会および総会と同時開催ということで、より一層の盛会も期待いたしております。本地域会議は、最新でグローバルな学術を学ぶことのみではなく、各国、各地域の国境と世代を超えた私たち女性医師の交流、が一番の目的です。会員皆様のご参加によって、日本の女性医師の活躍ぶりとその歴史を世界にアピールする絶好の機会になることと思います。

会議への参加申し込みと演題発表の抄録の受付がすでに始まっています。FAXでの参加登録用紙を同封いたしました。ホームページ (http://mwia-wpr2011jp.org/jap/top_J.html) からの参加登録もできます。

ご多忙の皆様とは存じますが、どうぞ今から万障お繰り合わせの上、今年の5月末には東京にご集結いただき、日本女医会のパワーとエレガントさを世界へ主張いたしましょう。

5月26日(木)		5月27日(金)	
夜(19:00~)		午前	午後
Welcome Get Together Party (日本女医会会員懇親会兼ねる)		(日本女医会評議委員会) Optional tour (海外参加者)	(日本女医会会員総会) 開会式 特別講演(押谷仁先生)
5月28日(土)		5月29日(日)	
		午前	
基調講演(喜多悦子先生、岩田喜美枝氏) シンポジウム 一般演題 Gala Party(地域会議懇親会パーティ)		シンポジウム 一般演題 閉会式	

会員動静 (2010年12月24日現在・敬称略)

<p>入会</p> <p>仲島香織 (平8年卒) 栃木</p> <p>林廣子 (平4年卒) 栃木</p> <p>高綱陽子 (昭63年卒) 千葉</p> <p>岡野七重 (昭61年卒) 神奈川</p> <p>市川弥生子 (平2年卒) 文京</p> <p>齋藤洋子 (昭58年卒) 愛知</p> <p>谷本真由美 (平11年卒) 岐阜</p> <p>高橋りょう子 (平10年卒) 大阪</p> <p>加藤雅子 (昭58年卒) 鳥取</p>	<p>退物</p> <p>7名</p> <p>村上喜久子 (昭26年卒) 青森</p> <p>且尾雅子 (昭23年卒) 群馬</p> <p>三神美和 (大13年卒) 都下</p> <p>白須ツギ子 (昭12年卒) 山梨</p> <p>野村多賀子 (昭19年卒) 愛知</p> <p>吉田敏子 (昭16年卒) 大阪</p> <p>木金ハツ子 (昭20年卒) 広島</p>
--	---

寄付者 (敬称略)

以下の通りお知らせいたします。
ご協力誠にありがとうございました。

菅野喜與先生 (宮城支部)
山本蒔子先生 (宮城支部)
山本先生は、故・吉本ミチ先生 (秋田支部) の
ご遺志によりご寄付くださいました。(事務局)



薬価基準収載

血行促進・皮膚保湿剤

ヒルドイド[®] クリーム0.3%

Hirudoid[®] Cream : ヘパリン類似物質 製剤

血行促進・皮膚保湿剤

ヒルドイド[®] ソフト軟膏0.3%

Hirudoid[®] Soft Ointment : ヘパリン類似物質 製剤

血行促進・皮膚保湿剤

ヒルドイド[®] ローション0.3%

Hirudoid[®] Lotion : ヘパリン類似物質 製剤



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売 **maruho** マルホ株式会社

[資料請求先]

大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

(ホームページアドレス)
<http://www.maruho.co.jp/>

(2009.1作成)

(((理事会議事録)))

日時：平成22年9月11日(土)
午後3時

場所：日本女医会会議室

出席者：津田、古賀、松井、山本、
秋葉、安部、大谷、川村、
澤口、諏訪、高原、塚田、
濱田、藤川、細川、前田、
宮崎、宮本、矢口、山
崎、山田、横須賀、吉馴、
中井、森川 (25名)

欠席者：小関、対馬 (2名)

- ・理事会に先立ち、津田会長の挨拶があった。
- ・7月理事会議事録を承認

【報告事項】

1. 津田会長より平成22年9月2日に内閣府 公益認定等委員会に「公益社団法人移行認定申請書」を提出した事の報告があった。
2. 庶務部報告 (宮本理事)
 - 1) 理事会、新旧役員歓送迎会を京王プラザホテルにて開催(7/17)
 - ・新旧役員歓送迎会は20名が参加(新旧役員歓送迎会の収支報告)。
 - 2) 役員慶弔費の残額は平成22年8月末現在で120,044円である。
 - 3) 平成22年度(社)日本女医会埼玉支部総会に津田会長出席(7/18)
 - 4) 第20回全国病児保育研究大会に山崎理事、小関理事出席(7/18)
 - 5) 第28回国際女医会議(7/27~31日：ドイツ、ミュンスター)に津田会長、古賀副会長、山本副会長、安部理事、濱田理事、藤川理事、宮崎理事、山田理事、矢口理事、吉馴理事が出席
 - 6) HPVワクチンに関するHPの宣言を更新(8/5)
 - 7) 「日本女医会誌203号」、「第10回国際女医会西太平洋地域会議チラシ」、「名簿改定に伴う返信はがき」を会員に送付(8/25)。

3. 会計部報告 (大谷理事)
7月分、8月分収支の承認
4. 事業部報告 (藤川理事)
 - 1) 「2010 APEC女性リーダーズネットワーク(WLN)」参加について説明があった。(開催期日：2010年9月19日(日)~21日(火) 新宿京王プラザホテルにて)
日本女医会は「展示」、「エクスカーション」に参加し、「救護活動」に協力をする。
展示：(社)日本女医会の歴史と活動を紹介する英文ポスター
エクスカーション：東京女子医科大学の見学ツアー(参加者：66名)
 5. 渉外部報告 (澤口理事)
 - 1) 国際婦人年連絡会 国際・開発委員会・外務省(外務審議官ら出席) 納涼会に出席(8/2 澤口理事)
 - 2) 国際婦人年連絡会 国際・開発委員会第3回委員会に出席(8/11 澤口理事)
 - 3) 国際婦人年連絡会第1回全体会(8/18 川村理事)
2010年NGO日本女性大会「NGO団体の分担拠出金」として日本女医会から10万円を分担協力する。
 - 4) 内閣府男女共同参画局主催「なでしこ流人材活用術~人を活かす、組織が強くなる」講演会に出席(8/31 川村理事)
 - 5) 世界の医療団「海外派遣ボランティア募集」について
世界の医療団から海外派遣ボランティアに若い女性医師の参加、協力の依頼。
 6. 学術部報告 (安部理事)
新薬トピックスに諏訪理事他数名に「ヒブワクチン」について原稿を依頼中である。学術部として西太平洋地域会議のプログラム編成に協力をする。
 7. 広報部報告 (秋葉理事)
 - 1) 8月9日に編集会議を開催し、8月25日に日本女医会誌203号を会員に送付(会誌広告協力のお礼)。日本女医会誌204号の編集

会議を10月7日に開催予定。HP宣言文の更新、他各種催し物情報を随時更新。

- 2) 入会リーフレットを5,000部印刷(10月の会誌に同封予定)。
- 3) 津田会長から吉馴理事に、7月に大阪で開催の「女性のための医療フォーラム」について会誌への原稿依頼。
8. 委員会報告
 - 1) 子育て支援委員会報告(津田副会長)
11月21日に名古屋で「ゆいネット連絡協議会」を開催。
 - 2) 長寿社会福祉委員会(山本副会長)
 - ・8月20日に平成21年度「在宅高齢者の栄養管理事業」に関してのヒアリングに出席し、本事業に対し高い評価を得た。
9. NC報告 (矢口理事)
第28回国際女医会議(7/27~31日：ドイツ、ミュンスター)の報告
 - ・第28回国際女医会議には43カ国から615名が出席した。日本からは27名(3名の学生を含む)が出席し、14題の発表を行った(講演発表：9題、ポスター：5題)。
 - ・平敷淳子国際女医会長が活躍され、日本女医会の誇りと感じた。
 - ・国際女医会のGolden Jubilee Member(会員歴50年以上の表彰)は53名で日本女医会の会員が最も多く(25名)、津田会長が代表で表彰を受けた。
 - ・ポスター発表の学生が表彰を受け、日本女医会を紹介する英文のポスターも話題となった。
 - ・ジェンダーはもちろん女性の視点でとらえたサイエンスの学会発表も多く日本女医会の存在感をアピールすることが出来た。
 - ・ドイツ女医会歴史の小冊子の配布があった。来年の西太平洋地域会議でも日本女医会の歴史をまとめた小冊子を作成し、配布出来たらよいと考える。
10. その他報告 (津田会長)
「ハイチ援助会」(シスター須藤

先生活動)に5万円の義援金を援助し、須藤先生と紹介された西嶋先生から礼状が届いた。

【審議事項】

1. 第10回国際女医会西太平洋地域会議の件(配布資料に基づき検討)

- 1) International scientific committeeの設置について(津田会長) <承認>
各国の代表による学術委員会(演題の採択、座長、Awardの決定、演題の採点をする)を立ち上げ、山本續子副会長をChairwoman of International Scientific Committeeとすることが承認された。
- 2) Key note lecture(基調講演者)について(津田会長) <承認>
次の2名に決定する。
・喜多悦子氏(日本赤十字九州国際看護大学学長)
・岩田喜美枝氏(株式会社資生堂代表取締役 執行役員副社長)
- 3) Medical students & young doctors 部門の設置について(津田会長) <承認>
医学生対象の部門を立ち上げ、students & young doctors 部門のプログラム編成を含め担当は事業部とする。
- 4) 開催日程と会場(矢口理事) <承認>
日本女医会評議員会開催日を、参加人数と経費の点から5月26日(木)から5月27日(金)の午前中に変更する。開催会場を確認する。
- 5) 招待者(矢口理事) <承認>
配布資料に記載の招待者の他、開会式に皇室関係者にご臨席を頂けそうである。この件は澤口理事に一任。
- 6) 参加登録費(矢口理事) <承認>
会員の早期登録費は30,000円とし、学生は5,000円とする。会議の同時通訳経費は200万円位に

なるので今後更に検討する。寄付についても今後検討する。

- 7) 各理事(組織委員)の役割について(矢口理事) <承認>
提案の資料に基づき各理事に組織委員会の各役割分担を依頼。資料について意見等があれば10月理事会までに事務局に連絡する。
 - 8) スポンサー(企業共催)について(矢口理事) <承認>
今回の理事会までに「趣意書」を作成するので、共催企業募集の協力を依頼。
 - 9) 今後の日程について(矢口理事) <承認>
・10月1日からHPにて参加登録を開始する。
・10月会誌に日本語版ちらし(第3版)を作成し、同封する(広報)
・レターパッド、封筒を作成(庶務)
 - 10) 組織委員会規約(案)(矢口理事) <承認>
財団法人東京観光財団から開催助成金の交付を受けるにあたり、「組織委員会規約」の提出が必要である。提案の規約(案)(資料3)について意見、修正があれば10月の理事会までに事務局に連絡する。
2. 女性医師支援委員会「第4回キャリアセミナー開催」について(澤口理事)
12月5日(日)、女性と仕事の未来館にてセミナーを開催する。渉外部の理事にも協力を依頼。詳細は理事会終了後、女性医師支援委員会を開催し検討する。講師に世界の医療団の事務局長エフテル・ブリュン氏を検討中である。
 3. ブロック懇談会について(宮崎理事) <承認>
岐阜でブロック懇談会を平成23年2月~3月頃に開催する予定。
 4. 医学生の国際学会等参加に関する助成について(藤川理事) <継続審議>
藤川理事より学生会員が国際

学会に参加する場合の、旅費等の助成(3名位)について提案があった。英国女医会等の助成状況を調べ、今後更に検討する。

5. その他

- 1) 軽井沢セミナーについて(山崎理事) <承認>
平成22年10月30日から31日に「第4回軽井沢セミナー」を開催するが、「軽井沢セミナー」の日本女医会の中での位置づけについては今後検討する。
- 2) 市民公開講座に対する助成申請について(津田会長) <承認>
群馬支部から「共催」で10万円、宮城支部から「主催」で10万円、神奈川支部(開催済)から「共催」で5万円の申請があった。助成はいずれも一律に「共催」で「5万円」の助成と決定。本来、「主催」は日本女医会本部の事業計画案に基づき開催される事業であるので、今後支部開催の市民公開講座に対する助成は「共催:5万円」とする。
- 3) 後援名義使用について(津田会長)
乳房健康研究会から「ピンクリボングローバルカンファレンス2010(9月18日・19日)」開催について「後援」の名義使用の申請依頼があり承認する。
- 4) シスター須藤のDVD紹介(津田会長) <承認>
西嶋攝子先生からシスター須藤先生のDVDを忘年会等の席で紹介をする予定。
- 5) Brazilian Association of Women Doctors (BAWD) 訪問(津田会長) <承認>
津田会長は学会出席のため次回理事会は欠席。

以上



日時：平成22年10月17日
(日) 午後2時
場所：日本女医会会議室
出席者：古賀、松井、秋葉、安部、大谷、小関、川村、澤口、高原、塚田、対馬、濱田、藤川、細川、前田、宮本、山崎、山田、横須賀、吉馴、中井、森川(22名)
欠席者：津田、山本、諏訪、宮崎、矢口(5名)

- ・理事会に先立ち、松井副会長より柳澤道子新事務局員の紹介があった。
- ・9月理事会議事録を承認

【報告事項】

1. 庶務部報告 (小関理事)
 - 1) 理事会を日本女医会会議室にて開催(9/11)
 - 2) 10/30~31開催の軽井沢セミナーについて、10/17現在の参加予定者は約30名である。今後の会員増強にも繋がると思われるので、更なる参加を要請。
 - 3) 藤川理事より9/19~21京王プラザホテルにて開催された「2010年APEC女性リーダーズネットワーク(WLN)会議参加についての報告。
600名を超える参加があり、女医会は「展示」、「エクスカーション」、「救護班」で参加し、大変感謝されたとの報告があった。
2. 会計部報告(塚田理事)
9月分収支の承認
3. 事業部報告(吉馴理事)
 - 1) HPVワクチン公費助成への女医会の取り組みについての報告。
吉馴理事より、現在の国の公費助成について報告と説明があり、山田理事や、対馬理事からもHPVワクチンに関して報告があった。
 - 2) 藤川理事より、10/23に開催の東京女子医科大学学園祭で開催する「チャットルーム」に高原理事の出席を依頼した。また東京近

- 郊の先生方にも参加を要請。
4. 学術部報告(安部理事)
新薬トピックスの原稿進行の状況について報告。
 5. 渉外部報告(川村理事)
9/28国際婦人年連絡会第1回集中セミナーに出席の報告。
 6. 広報部報告(対馬理事)
10/7に編集会議を開催し、10/25に日本女医会誌204号を会員に送付予定。
HP記事、他各種催し物情報を随時更新。次回会誌の発行に向けて協力を依頼。
 7. 委員会報告
 - 1) 子育て支援委員会 (対馬理事)
7/25岡山、8/27札幌にてセミナーなどを開催。今後は10/23岐阜、11/21名古屋、11/28盛岡。来年2/20に報告会を実施する予定。
 - 2) 小児救急・子育て支援委員会 (山崎理事)
9/28、石原幸子先生が埼玉で「小児救急講演会」をしたとの報告。
 8. NC 報告(矢口理事欠席のため安部理事が報告)
第10回国際女医会西太平洋地域会議(5/26~29)の報告
 - 1) 基調講演には、喜多悦子先生「難民・紛争における国際保健とは?」と岩田喜美枝氏「一瞬も一生も美しく」に決定。
 - 2) オープニングレクチャーについては検討中。
 - 3) 参加5カ国に、各国1名のInternational scientific committee memberのノミネートをメールにて依頼中。
 9. その他の報告
公益法人申請後の経過について報告(羽田氏)
10/4に公益認定等委員会事務局から申請書類で指摘された事項について説明があった(指摘内容を明記した資料を配布)。公益法人認定は現段階では問題が多く厳しい状況だが、引き続き羽田氏に公

益法人化の申請活動の継続を依頼する。

【継続審議事項】

医学生国際学会等参加に関する助成について(藤川理事)
引き続き継続審議とする。

【審議事項】

1. 第10回国際女医会西太平洋地域会議の件(安部理事) <承認>
 - 1) 前回の理事会で提出された財団法人東京観光財団へ提出する組織委員会規約について、会計年度を登録費用の入金がある平成22年11月~平成23年10月の1年間とする。
 - 2) 落合博子先生(国立病院機構東京医療センター)をプログラム編成委員とする。
 - 3) プログラム発行部数を2000部とし、広告料は1ページ5万円、1/2ページ3万円とする。
 - 4) コングレスバックについては来月の審議とする。
2. 「2010年NGO日本女性大会(12/4)」について(澤口理事) <承認>
展示はAPECなどにも使用した女医会ポスターを使用する。中井監事に「小児救急マニュアル本」などの販売を依頼。
3. 第4回キャリアシンポジウム開催について(12/5) (澤口理事) <承認>
配布のプログラム案について検討。小宮山洋子厚生労働副大臣に基調講演を依頼。他の演者、パネラーについては提案通りに決定。また事前に男女医学生にアンケートを実施し、調査結果を発表する(後日、澤口理事より各理事にアンケート内容を連絡)。来月の理事会までに集めたアンケートを前田理事が集計。
4. ブロック懇談会について(宮本理事) <承認>
平成23年2月27日(日)に岐阜で開催予定。
5. 忘年会または新年会の開催について(宮本理事) <承認>

来年1月理事会(平成23年1月29日(土))後に新年会を行う。料理内容等については庶務に一任。

6. 会員増強について(山崎理事)

<継続審議>

入会者を増やし、退会者を防ぐには何をすべきか。今後更に検討する。

7. 学術研究助成募集案内文について(細川理事)

<承認>

会誌及びHPに記載されている「学術研究助成」の募集案内文について、金額や応募資格について修正すべき点があるとの指摘があり、今後学術部で検討する。

8. その他(松井副会長)

<承認>

1) 事務局及び会議室のカーテンについて(購入またはクリーニング)

会議室のカーテンのみクリーニングに出す。

2) 事務局のパソコン及びコピー機について

パソコン及びコピー機の購入に

ついては4社から見積もりを取ったが、5年リースで(株)メガに決定(1か月のリース代はPCを含め¥21,000)。

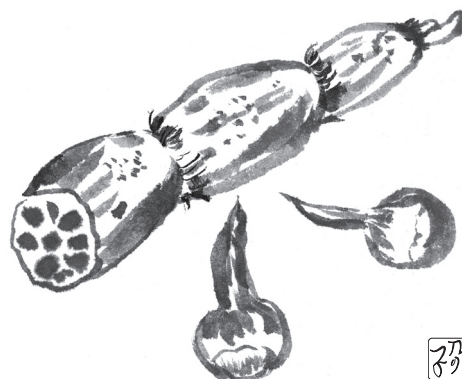
3) エジプト大使館主催のバザー参加の呼びかけがあり、理事会参加役員全員が1枚ずつバザー券を購入。

4) アニメ・ジュノー製作委員会より、広島原爆投下時に多数の薬品援助をされたスイス人医師・マルセル・ジュノー博のアニメ映

画「ジュノー」のちらしを東京近郊の会員に配布したいとの希望があり承認された。(送料の一部負担をしてもらう)

5) 「円より子さんを励ます会」より、発起人への依頼があったが、女医会としては、中立の立場を守る為にご希望に添えないとすることとした。但し、個人的には自由であり各自のご判断に任せる。

以上



処方せん医薬品^注
子宮内避妊システム

薬価基準未収載

 ミレーナ[®] 52mg

レボノルゲストレル放出子宮内避妊システム

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

Mirena[®]



効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

資料請求先

バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<http://www.bayer.co.jp/byl>



Bayer HealthCare
Bayer Schering Pharma

(2008年7月作成)

MRN-08-4012

社団法人日本女医会 第56回 定時総会 のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生方にはご清祥にてご活躍の事とお喜び申し上げます。

さて第56回日本女医会定時総会は、第10回国際女医会西太平洋地域会議開催と共に、下記の予定で開催致します。

多くの方にご参加いただきたいと考えておりますので、皆様お忙しい事とは思いますが、是非ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

日時：平成23年5月26日（木）～27日（金）

（国際女医会西太平洋地域会議は、5月26日（木）～29日（日）開催）

場所：京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿 2-2-1 電話 03-3344-0111

5月26日（木）夜 国際女医会西太平洋地域会議出席者と共に歓迎パーティ
5月27日（金） 午前10時30分より評議員会
午後2時より総会

時間と内容は多少変更する場合がございます。詳細は次号にてお知らせ致します。

女医会新名簿のハガキ返信のお願い

昨年8月発行の会誌にて、新しい名簿作成の為のご住所・ご勤務先等の確認のハガキを「9月中に返信」をお願いいたしました。お返事のない場合は、今までのご住所等を掲載する事になっております。

変更等がおありで、まだお出しになられていない先生は、お手数でも返信をお願いいたします。

尚、メールアドレスが大変読みづらくなっております。

アルファベットの大・小文字や、「-」ハイフン、「_」アンダースコア、「.」ピリオド、「/」スラッシュなど、明記いただけると幸いです。



編集 後記

あけましておめでとうございます。昨年も会長をはじめ皆様のご協力で、日本女医会の理念を再確認していただく場として開催された、各委員会のセミナー・講演会・地域懇談会・支部便り等、臨場感溢れる投稿をいただき楽しい会誌となりました。

国際女医会の報告は我々の日常では忘れがちな立場や使命を、又若い方々のパワーが伝わったと思います。これからも日本女医会の活動を誌面から理解していただき、賛同を得、会員増強につながる誌面作りを心がけてゆきたいと思っております。

今年2011年は第56回日本女医会定時総会と第10回国際女医会西太平洋地域会議が5月26日～29日に同時開催されます。多くの会員の皆様が出席され、より強い絆が出来ることを願います。今年も熱気伝わる投稿のほどよろしく申し上げます。 横須賀麗子

日本女医会誌

復刊第205号 2011年1月25日発行

編集人 対馬ルリ子

発行人 津田 喬子

制作 あづま堂印刷

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7

青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : office@jmwa.or.jp